

書評

高橋雅士, 上甲 剛, 高橋康二, 栗原泰之, 田中伸幸 編

胸部画像診断スタンダード

九州大学大学院医学研究院教授 臨床放射線科学分野

本 田 浩

胸部領域での画像診断の中心が、胸部 X 線写真と CT であることは周知のとおりである。30 数年前、放射線科医になりたての頃、Felson を何度読んでも胸部 X 線写真が十分に理解できなかった。その後、高分解能 CT (HRCT) 画像の出現や伸展固定肺を用いた病理所見との比較を目的の当たり前にして、HRCT 画像の精度の高さに驚き、胸部画像診断の奥深さと面白さを実感した。振り返って胸部 X 線写真をながめると、それまで見えなかったものが見えてきたような気になった。

本書の発想は、「コンパクトで実践的な書」がベースになっている。日常臨床で高頻度に遭遇する胸部疾患を網羅し、胸部領域の非専門家でも気軽に利用できるテキ

ストとなっている。放射線科専門医および放射線診断専門医のための「新しいガイドライン」を踏まえて、その目的に沿うように、疾患が選択され、症例ごとに、放射線科専門医レベル、放射線診断専門医レベル、指導医レベルの表示がある。専門医試験をこれから受験する諸君にとっては、受験するための知識の目安に役立つ。全 10 章から構成され、腫瘍、縦隔疾患、感染症、びまん性疾患、血管性疾患、胸膜疾患、外傷、先天性疾患など、胸部領域で知っておくべき多くの疾患について解説されている。疾患ごとに、重要項目 (Essentials) を押さえた後、臨床的事項、病態生理・病理像、画像所見の順に記述され、画像はいずれも、胸部 X 線写真と CT 画像

が示されている。全ての疾患で同様の配列がなされているため読みやすい。

かつて米国から輸入された画像診断はパターンと鑑別診断の暗記が中心であった。それに対し、わが国の放射線科医は、病態や病理所見をもとに、画像の組成解析から診断に至る努力を重ねてきた。このことが我々に、画像診断の奥深さと面白さを実感させてくれたように思う。このためゆめ研鑽を積んだ、わが国を代表する 44 名の胸部領域の専門家による書である。知的活力が横溢する諸氏にもかかわらず、知識のエッセンスを凝縮し、コンパクトにまとめたことには感謝する次第である。それだけに、我々読者は、行間に潜む執筆者諸氏の思いを受け止め、胸部領域の画像診断への理解をさらに深める努力をしなければと強く思う。そのようなきっかけを与えてくれる書である。

[B5 頁 348 2013 年 定価
6,300 円 (本体 6,000 円 + 税 5%)
MEDSi 刊]